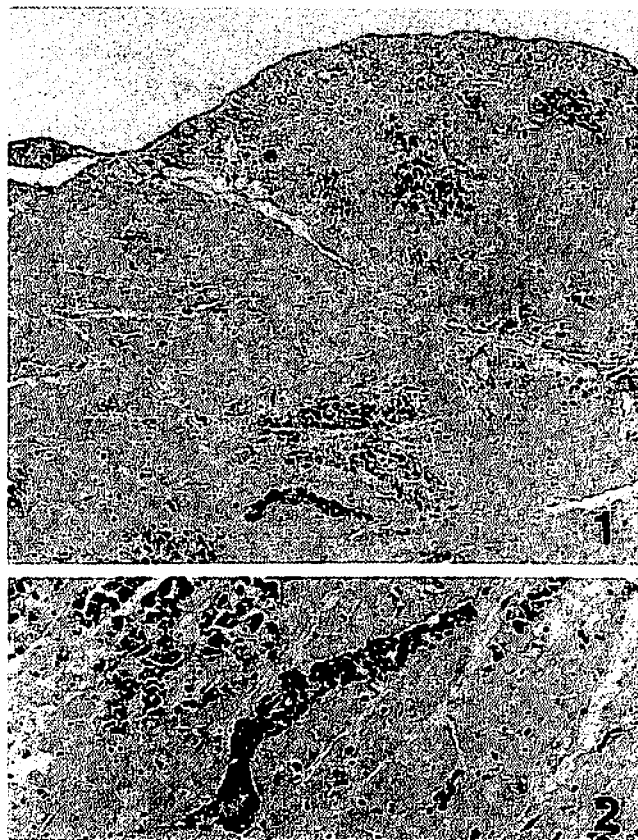


鶏の心臓

家畜衛生試験場鶏病支場出題 第24回獣医病理学研修会標本No.403



動物：SPF (PDL-1)，雄，75日齢。

臨床的事項：鶏の大腸菌接種実験において、培地接種対照鶏として、70日齢時に滅菌ハートインフュージョンブイヨン培地1mlを後胸気嚢内に接種し、5日後に解剖した。臨床症状は、接種前、接種後とも認められなかった。なお、大腸菌を接種した1羽の鶏にも同様の心筋病変が認められた。

肉眼所見：心臓を横断して観察すると、左心室の心内膜に沿った心筋に白色病巣が認められた。病巣は左心室の心尖側でより大きく、冠状溝に近づくにしたがって認められなくなった。

組織学的所見：左心室内膜側に沿った心筋に限局性に硝子様壊死を示していた（写真1，HE，×70）。このほか、壊死した心筋線維の石灰沈着、間質の膠原線維増生が心筋壊死病巣周辺に認められた。壊死した心筋線維の核は濃縮あるいは消失し、細胞質では横紋は消失し、硝子様

となり、しばしば顆粒状ないし塊状の石灰性物質（コッサ反応陽性）が沈着していた。一部、心筋線維の空胞化、融解消失による心筋の疎性化も認められた。壊死病巣内での間質の水腫（写真3，HE，×170）、小血管の壊死（写真2，HE，×170）も認められたが、冠状動脈系の明らかな病変は認められなかった。なお、PAS染色で壊死巣は陽性に染まり、正常心筋組織とは明確に識別できた。骨格筋、筋胃に筋変性は認められなく、その他の臓器にも特記すべき変化は認められなかった。

診断：“鶏の心内膜側筋層における心筋壊死と心筋石灰化”と診断された。鶏では、心筋の限局性壊死についての報告はほとんどない。今回の症例の病因については不明であるが、病理所見から感染症、栄養性筋変性症は否定された。今後は、遺伝的背景を考慮する必要がある。